

消防大学校だより

上級幹部科における教育訓練

消防大学校では、消防に関する高度な知識及び技術を総合的に修得させ、現に消防の上級幹部である者の資質の向上を目的として、総合教育「上級幹部科」の教育訓練を実施しています。

令和6年度の第88期では、48名の学生が1月21日（火）から2月6日（木）までの17日間にわたる集合研修を行いました。

研修では、池田消防庁長官、田辺次長の講話をはじめ、消防庁幹部による最新の消防行政の動向について、リモートにより講義を行っていただくとともに、消防大学校客員教授等による危機管理、身体管理、消防管理概論やトップマネジメントなどの講義、全国消防長会吉田会長による講話を通して、組織の上級幹部として必要な知識、役割や心構えについて習得しました。



長官によるリモート講義

指揮シミュレーション訓練では、大規模災害等発生時における、受援都道府県、被災地消防本部及び緊急消防援助隊の役割等について理解を深め、特に受援に関する能力の向上を図りました。



指揮シミュレーション訓練

実火災体験型訓練では、火災の成長過程やフラッシュオーバー発生前の兆候など火災の性状について学んだほか、危機管理広報の実習では、組織内で不祥事が起きた際の報道対応（模擬の緊急記者会見）を行い、危機事案

発生時の適切な広報技術の向上を図ることができました。

また、今期より東京消防庁災害史安全教育室への視察研修を取り入れ、先人たちの消防に対する限りない情熱と崇高な使命感・責任感を目の当たりにし、「殉職者を絶対に出さない」と決意を新たにしました。



模擬記者会見

研修を終えた学生からは、「現役消防長の方との意見交換では、組織の大きさによらず、組織のトップの孤独さや、自らが最後の砦となり判断・決断する厳しさを感じることができた。」「安全管理の徹底と殉職者を絶対に出さない組織体制を構築する必要性を再認識しました。」「志を同じくする全国の仲間と様々な情報を共有し、意見交換を通じて交流を深められたことは大変意義深く、この出会いを通じ、ネットワークと協力体制が構築できたことは、かけがえのない財産。」「著名な方々の講義も大変わかりやすく経験に基づく内容が多かったのととても有益でした。」などの感想をいただきました。

さらに、消防大学校の講義だけでなく、東京消防庁・横浜市消防局の学生が中心となり週末を活用した視察研修を企画し、東京消防庁の災害救急情報センター、消防博物館及び第三消防方面本部並びに横浜市消防局本部庁舎の視察を行うなど、様々な体験や学びを得るとともに、学生間の絆が強固になるこれらの取組については、上級幹部科の伝統として今後もぜひ継続していければと思います。

結びに、本大学校で学ばれた知識と磨きをかけた判断力、さらには全国の仲間との築いた絆を活かし、それぞれの市町における的確な消防行政運営により住民の安全安心を実現するとともに、職員がやりがいと達成感を感じることができる組織作りに邁進していただきたいと思います。

高度救助・特別高度救助コースにおける教育訓練

消防大学校では、「緊急消防援助隊教育科 高度救助・特別高度救助コース第14回」を開催しました。（令和7年1月31日～2月18日）

本コースは、特別救助隊、高度救助隊及び特別高度救助隊（救助隊は含まない）の隊長若しくは指導・監督的な立場である者又はそれらの予定者を対象とした教育課程であり、その業務に必要な知識及び能力を修得させることを目的とし実施し、全国37都道府県47名の学生が、リモート講義を含む全12日間の教育を受講しました。

本コースの学生は、緊急消防援助隊としての活動時、各都道府県大隊救助小中隊の中核を担う役目もあることから、安全管理、現場指揮にポイントを絞り、近年多発する地震、大規模風水害対策に重点を置いたカリキュラムを構成しました。

講義では、指揮者として必要な安全管理、応援体制及び他機関連携等を学び、訓練では、指揮シミュレーション訓練、高度救助資機材を使用した初動対応（活動）訓練、土砂災害への対応訓練及び実際の緊急消防援助隊を想定した、派遣要請からの出場・情報収集・各種災害対応・長時間の緊急消防援助隊活動訓練などを実施し、改めて、安全管理、現場指揮、緊急消防援助隊のスキームについて認識しました。



指揮シミュレーション訓練



緊急消防援助隊活動訓練

校外研修では、東京消防庁の災害史安全教育室、整備工場、多摩航空センター、第八消防方面本部消防救助機動部隊を視察し、緊急消防援助隊に関する知見を広めました。

最終日の課題討議では、緊急消防援助隊の応援（受援）体制及び大規模災害時における救助現場指揮の問題点・課題について、消防庁担当者と直接意見交換を行えたことにより、各所属の緊急消防援助隊に関する体制の充実強化、問題・課題解決の一助につながるものとなりました。



課題討議（消防庁との意見交換）

研修を終えた学生からは、「緊急消防援助隊のスキームについて、深く理解できた」、「所属の強みと弱み、自分の役目が明確になった」、「現場指揮の難しさ、安全管理の重要性を再認識した」、「全国に志を同じくする仲間ができ、今後につながる意見交換ができた」などの感想をいただきました。

受講生には、今回習得した知識、技術そして全国の同期生とのネットワーク構築により、有事の際には困難な状況下でも職責を果たし、一人でも多くの方々を救うべく高度な救助活動を展開することが期待されます。

問合せ先

消防大学校教務部
TEL：0422-46-1712